

現場レポート

－ コマツ茨城工場 －

1. はじめに

茨城港常陸那珂港区は、2000年に北ふ頭外貿ターミナルの供用開始、2011年に北関東自動車道が全面開通、本年4月より、中央ふ頭地区において新たな耐震強化岸壁が供用を開始するなど、北関東の海の玄関口としての役割を担っています。

また、取扱貨物量のうち、輸出においては産業機械（建設機械）が約8割を占めており、建設機械の輸出拠点となっています。この度、建設機械メーカーのコマツにご協力頂き、茨城工場の視察をさせていただきました。

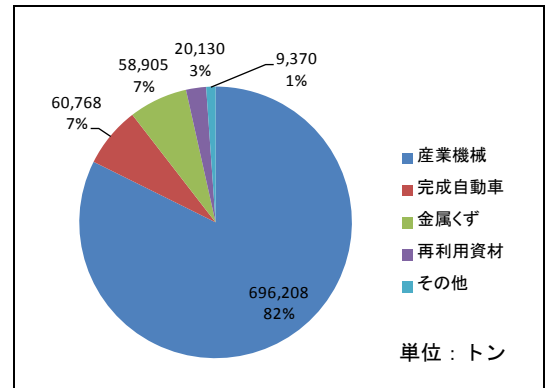


図1 常陸那珂港区の取扱貨物量（輸出）

※茨城県港湾統計（2014年速報値）より

2. 視察概要

■ 茨城工場の概要

コマツ茨城工場は、2007年に真岡工場（栃木県）の分工場として設立されました。2010年までに、真岡工場で取り扱っていた製品の生産移管などを経て、新型の設計やデザインを行う開発センタおよび試作機の性能テストを行う試験センタを真岡工場から移設し、マザー工場[※]となりました。さらに、2013年には工場敷地の南側を拡大し、約72,000m²の試験場を竣工し、製品の品質向上に取り組んでいます。

※) マザー工場：試作機の開発・試験と取扱製品の生産・出荷までを行う工場を指す。海外工場職員の育成なども本工場で行っている。

現在は、茨城工場で生産した製品は、そのうちの約96%を常陸那珂港区より出荷しており、北ふ頭地区の公共岸壁まで自走搬送、機種によってはトレーラーで搬送し、船に載せて国外・国内へ出荷しています。出荷1回あたり、15～20台の建設機械を船に載せて出荷しています。



図2 工場立地図

■ 取扱製品について

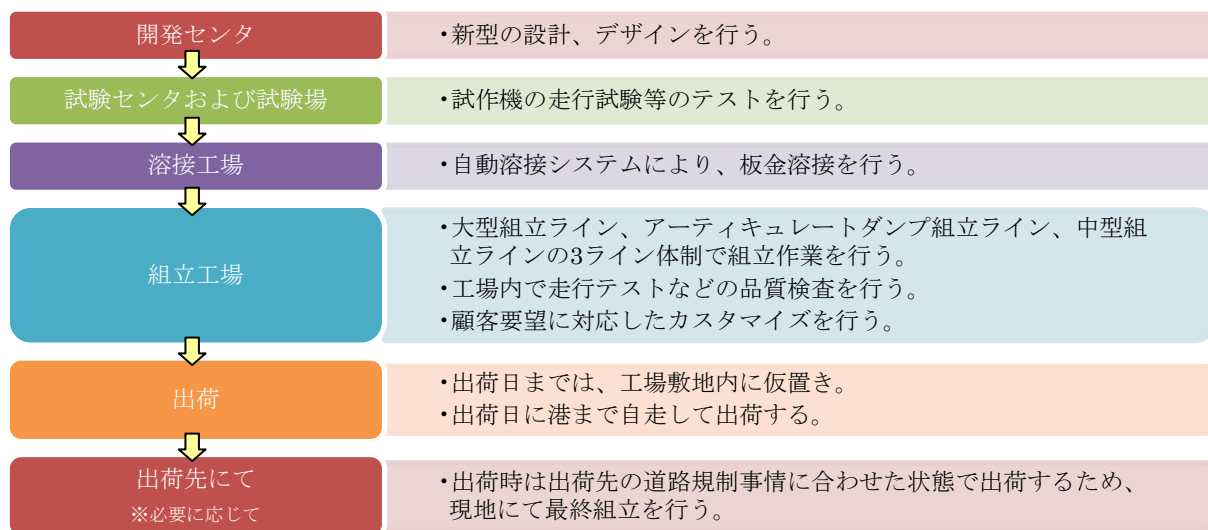
茨城工場の主な取扱製品は、図3に示すようなタイヤ付の建設機械で、ボディの溶接、各 부품の組立、検査といった車体生産のみを行っています。各部品（エンジンやトランスミッションなど）は国内の他工場生産されたものを茨城工場まで陸上輸送して用意しています。

		
<p>リジットダンプトラック</p> <ul style="list-style-type: none"> 建設現場で発生する土砂や、採掘場や鉱山の原石を運搬する。 	<p>アーティキュレートダンプトラック</p> <ul style="list-style-type: none"> 車体中央部が屈曲するため、悪路走行に適したダンプトラック。 	<p>ホイールローダ</p> <ul style="list-style-type: none"> 車体前面の大きなバケットで、砂や砂利をダンプトラックに積み込む。

図3 主に生産している建設機械 ※写真：コマツより提供

■ 生産の流れについて

製品の生産は大まかに以下の流れに沿って行われています。建設機械は基本的に受注生産であり、国内向け、北米・欧州といった先進国向けの製品は、排ガス規制にも対応しています。



3. 所感

視察当日は、中型の建設機械の組立作業を拝見しました。中型といっても大きさは3m近くあり圧巻でした（右の写真は出荷待ちのアーティキュレートダンプトラック）。

今回の視察を通して、「港湾を利用されるユーザーの皆様が、あってこそその港湾施設」であることを再認識いたしました。今後ともユーザーの皆様を使い易い港湾施設の整備に臨んでいきたいと感じました。



写真 出荷待ち製品と一緒に

最後に、本視察に当たり、ご協力頂きました砂田総務部長をはじめとするコマツ茨城工場の皆様に深く御礼申し上げます。